

第1学年 道徳学習指導案

日時 平成21年 11月17日
学級 1年(男子9名 女子8名 計17名)
井上 恵美子

1 主題名 「役割と責任の自覚、集団生活の向上」4-(4)

2 資料名 「席がえ」

3 主題設定の理由

(1) 主題について

内容項目4-(4)は、「自己が属する様々な集団の意義について理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める」ことを目指している。緊張感の持続が少し緩み始めたこの時期に、「少くらしい」「自分だけではない」といった甘えから、係活動や各自の仕事に対しルーズになる生徒が徐々にあらわれる。また、友達との関係も、なれ合いになり言葉の掛け方や態度が横柄になってくる。クラスの小さな歪みは徐々に大きく膨らみ、他を思いやる心を失い、ともすると崩れていくことにつながる。

学級という集団が向上するためには、個々の言動が大きく作用する。個々の向上なくして集団の向上はありえない。心が大きく成長する時期だからこそ、自分を見つめなおし、自己の向上を図る心を育てたい。また、一人一人が自己の責任や役割をしっかりとらえ、集団の向上につなげていこうとする心を育てたい。

(2) 資料について

クラスの席がえは、友人との関係が学校生活の大きな要素である中学1年生にとって、非常に関心の高い一大事である。この資料では、学級で席がえをすることになり、ルールにのっとって席替えを行うべきところを、自分勝手に席を移動した人がたくさんいた。副委員長の「わたし」は、きまりを勝手に変えることはいけないことなのだという考えから、再度席替えを提案する。本時の指導では、自分勝手な行動は、誰かを不愉快な思いにさせたり、いやな気持ちにすることに気付かせたい。さらに、「集団の向上には一人一人の役割と責任の自覚が大切である」ことを理解するだけでなく、互いの考えを交流し合い、意見を出し合うことで、自分はどうあるべきかを考えていく機会としたい

(3) 指導観(キャリア教育との関わり)

席がえは、学習をする環境を考えたり、班としての活動や交流を考える上で、生徒にとっては大きな意味を持つ。この資料の席がえでは、きまりを破って、勝手に席を変えてしまう。

級友たちの行為は明らかに問題があるが、ついそうしなくなってしまった気持ちも理解できるはずである。

このような問題について、「きまりなのだから」と一方的に指導しても生徒の反発を招くだけに終わりやすい。きまりを破って勝手なことをしてはいけないと頭ではわかっている、その思いを実行に移す技能を身につけなくてはならない。本時では、ロールプレイを取り入れることで、きまりを破ることが相手にいやな思いさせることになるのだということに気付かせたい。

「くじ引き」というルールを無視して勝手に席をかわったという状況をとらえ、自分だったら席を「譲るか」「譲らないか」の点にポイントをしぼり、「わたし」「並んで座りたかった二人」「しかたなく席を譲った人」の三者の立場に立ち、意見交流を行いながら自分の向かうべき姿に気付かせたい。また、「わたし」の立場に共感させることで一人一人が役割と責任を自覚し、互いに人間関係を大切にしていけることが集団の向上につながることを理解させたい。

人間関係形成能力		情報活用能力		将来設計能力		意思決定能力	
自他理解	コミュニケーション	情報収集・探索	職業理解	役割把握・認識	計画実行	選択	課題解決
◎	○						
【キャリア教育単元目標】 ◎自分が所属する集団の中で、集団の一員として、一人一人が役割と責任を自覚し、互いに人間関係を大切にしていけることが、集団生活の向上につながることを理解させたい。（自他理解・コミュニケーション）							

(4) 生徒について

1年生は明るく素直である。幼少期から多くの時間を共有して過ごしているため、お互いの性格や気心が知れていて、仲がよい。しかし、お互いがよく分かっていることで生活がなれあいになってしまい、言うべきことを言えなかったり、ともすると自己中心的な言動も見られる。

アンケート調査の結果では、「人間関係形成能力」における「自他理解」「コミュニケーション」は、小学5年生時での比較を見ると低くなっている。道徳に関する意識は「集団の向上は個人の意識が大きく影響する」ことは、理解している。しかし、実際の生活の場面で問題に直面したときに「どうすればよいか」を考え実行に移す力は充分とは言えない。

また、授業においては、自分の考えを相手に伝えることが苦手な生徒が多く、なかなか意見の交流がはかられない。

本時の授業では、集団の向上は、個々が責任を果たし集団の目標を達成する中ではかられるという道徳的な価値を深めるにあたって、同じような状況にあった時、「どうすればよいのか」を各自が考え、集団生活の向上に努めさせたい。

4 指導計画

別紙学校経営計画による

5 本時の指導

(1) ねらい

- ・集団の一員として自分はどうあるべきかを考え、互いに人間関係を大切にし、集団生活の向上に努めようとする態度を育てる。

(2) 展開

	学習活動	期待される生徒の反応	指導上の留意点・支援◇評価◆キャリア
導入 5分	○学級の良さについて考える。 ○資料の範読を聞く。	・仲が良い。 ・困っているときに手を貸してくれる。	・ねらいとする道徳的価値への意識付け意欲付けを図る。 ・日常を振り返らせ、援助してもらったこと、励ましてもらったことなどプラス面を語らせる。
展開 30分	1 席がえについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ルールを説明し席がえを行った「わたし」は学級がどう動くことを望んでいたのだろうか。</div> 2 それぞれの人がどんな気持ちになったかを、演じることで考えよう。 ・役を演じたときの気持ちをシートに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ルールを説明されたのに、なぜ勝手に席をかえたのだろうか。</div> 3 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">揺れ動く気持ちを持ちながら、席がえをやり直したのはどうしてだろう。</div>	・皆がルールを守ってくれる ・勝手な人はでないだろう。 ・不愉快な思いをする人を出したくない。 ・「わたし」 ルール違反は許せない ・「仲良し2人」 少しくらい許して欲しい ・「譲った」 嫌だけど我慢しよう ・気の合う人と近い席になりたい。 ・話の合う人と毎日楽しく過ごしたい。 ・少しぐらいのわがままなら許されるだろう。 ・ルールで決めたことは守るべきだ。 ・嫌だと感じる人がいるのだからやめるべきだ。 ・個人が勝手な行動をとれば、集団が勝手な方向に進んでしまう。	・学級をリードする、副委員長の「わたし」として考えさせる。 ・資料をもとに、ねらいとした道徳的価値を基本発問で追及し、中心発問により価値把握させる。 ・ふざけた態度で演じては意味がないので、始めにデモンストレーションをおこなう。 ・それぞれの気持ちを簡単な言葉でシートに書かせる。 ◆ロールプレイをおこない、他の意見を聞くことができる。 ・自由な考えを発表させる。 ・共感する部分を引き出し、同じような心情を持つことを意識させる。 ・補助的な発問をおこない、道徳的判断力を問いながら、考えを深める。 ・ねらいとする道徳的価値を把握させる ◇共感する部分はあるが、集団がよりよくあるために、どうすべきかを考えることができる。 ◆自分勝手な考えが人に迷惑をかけることに気付くことができる。
終末 10分	○学級の向上のために、何を大切にしてきか、その時どのような気持ちだったかを学習シートに記入する。 ○教師の説話を聞く。	・努力している友達を励ました。 ・友達のことを考えてあげることが大切なことだ。 ・誰かが頑張っていたら、お互いに協力し、支えあいたい。	・資料から離れて自分たちの生活を見つめ直し、価値の主體的自覚を図る。 ・日常生活の中で努力している事を思い起こさせる。 ◇一人一人が、集団の一員としての責任を自覚し、お互いを大切にしなければいけないことに気付くことができる。 ・価値にかかわる事象に関し、プラスに働き自信につながる事柄を紹介する。

6 評価

- ・学級の一員として自分はどうかあるべきかを考えることができたか。

7 板書計画

別ファイル「公開板書」

迷惑をかけてしまった事

- ・遅刻をして迷惑をかけた
- ・家庭学習をやらずに迷惑をかけた
- ・仕事を友達にまかせて帰った

私の気持ち

- ・ルールは守ってほしい
- ・勝手に腹が立つ

(シート)

譲った人の気持ち

- ・仕方がない
- ・嫌だけれど我慢しよう

(シート)

かえてもらった人の気持ち

- ・どうしても一緒に座りたい
- ・少しくらい許しいて欲しい

(シート)

揺れ動く気持ちを持ちながら
席がえをしたのはどうしてだろう

な

- ・不愉快な思いをしている人がいるのだから、やり直す
- ・ルールで決めたことは守るべきだ
- ・皆から反対されることは辛い、リーダーとして
言わなければならない
- ・一人が勝手なことをすれば、全体が勝手になる